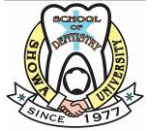




発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



歯学教育者ワークショップ開催される

歯学教育推進室 片岡 竜太



第16回昭和大学歯学教育者のためのワークショップは、7月30日(土)、31日(日)に神奈川県葉山町IPC生産性国際交流センターで開催されました。医学部のアドバンスドと4学部のビギナーのWSと同時開催で、夜は約120名の4学部の教員が参加する懇親会が開催されました。宮崎学部長、小口理事長、片桐学長の挨拶に続いて、小出医学部長、小川医学部教育委員長のご挨拶もいただきました。

その後東京歯科大学教授の佐野 司先生に「東京歯科大学における歯学教育の改革と実践」というテーマでご講演をいただきました。大変きめ細やかな学生教育について、ご自身のご苦労と喜びがじかに伝わってくるお話で、アンケート結果で参加者の満足度は100点満点でした。この講演に動機づけられ、46名の参加者は各グループに分かれて活発な討議を行いました。

本学歯学部がおかれた厳しい状況を打破すべく、テーマ1.「国家試験の合格率の向上を目指して」とテーマ2.「チーム医療ができる歯科医師の養成」と重要なテーマに取り組みました。テーマ1は必ず達成しなければならない最低ラインの確保で、学生の消化不良をなくし、学習を促す試験を実施し、成績下位者に対して効果的な指導をするためにどうすればよいかを検討していただきました。テーマ2は昭和大学全体の教育目標の「チーム医療ができる医療人を育てる」につながる本歯学部のオリジナル教育で、新しく加わった学部連携教育を歯学教育にどのように位置づけ、充実させるかを検討していただきました。

東京大学医学教育国際協力研究センターの大西弘高先生には、「学生に動機づけを与える授業と評価について」ご講演をいただきました。学生を動機づけるための、ARCSモデル(A:注意 R:関連性 C:自信 S:満足感)をどのように学べば良いか示す「スタディガイド」の有用性、臨床評価において実施すべきwork-based assessment(現場での業務に基づく評価)などわかりやすく解説していただきました。4大学

交流校の先生方にもディスカッションに加わっていただき、成績下位者に対する指導について紹介していただきました。医学教育推進室長高木先生や薬学教育推進センター長の木内先生には、それぞれの学部の成績下位学生への取り組みや学部連携病棟実習について説明していただきました。

参加された先生方には時間割や試験時期の見直し、進級試験のブラッシュアップや受験資格の厳格化、指導担任制度の活用方法、学部連携病棟実習の改善案、学部連携教育を含めた歯学教育のグランドデザイン案などについて、実施にいたる具体的な方策まで考えた完成度の高いプロダクトを作成していただきました。今後教育委員長と連携して、来年度の教育に活かす予定です。

ワークショップ委員および準備委員、各教室の先生方には開催の3ヶ月以上前から準備を重ねていただき、大変感謝しております。ご多忙な時期にも関わらず参加していただいた先生方、運営にあたったワークショップ委員会、教務課の皆様には感謝します。

歯学部学生会の会長に就任しました

D4 宋本 儒享

厳しい暑さが続いておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。今年度歯学部の学生会長に就任しました歯学部四年の宋本儒享です。

今年度は東日本大震災という悲しい出来事がありましたが、早く被災地が復興し、被災者の方々の心の傷が癒え、また明るい笑顔を取り戻してほしいと心より願っています。

さて、時がたつのは早いもので、私ももう四年生になりました。一年の時に経験した寮生活が今ではとても懐かしくて、またあの頃に戻って友達と楽しく過ごしてみたいと思います。

最近によく歯科医師にとって厳しい時代と言われ、将来への不安などもあります。しかし、この大学を選んで歯科医師になると決めた以上、学費を負担してくれている両親に感謝して、残りの大学生活をしっかりと勉学に励み、充実したものにしたいと思います。

学生会長の就任に当たりましては、新入生歓迎行事などの学校行事の計画や立案に積極的に参加するとともに、自分自身の学校生活を見つめなおし、学生の手本となれるような言動、行動をとれるように努めたいと思います。ご協力よろしくお願い致します。



第16回昭和大学歯科医学教育者のためのワークショップに参加して

北海道医療大学歯学部 咬合再建補綴学分野
越野 寿

この度は、貴学のワークショップに参加させていただき誠にありがとうございます。私は北海道医療大学で教務副部長を担当しており、臨床教育の改善を命ぜられている立場です。そういうことから、全てにおいて私立歯科大学・歯学部の手本となるような成果を残されている貴学の教育基盤の裏側を勉強させていただこうと思い、本ワークショップに参加させていただきました。まさに、期待通りのものであり、教員個々の教育に対する熱意の高さ、教授が率先して改革に取り組んでいる姿勢、多くのことを学ばせていただきました。特に今回のテーマに設定された「国家試験合格率の向上を目指して」と「チーム医療ができる歯科医師の育成」は、私にとってもタイムリーなテーマであり、大変参考になるご意見を数多く聞かせていただきました。本当に真剣に、熱のこもった議論をされている姿は、羨ましくもあり、我々もこうしなければと奮い立たされる2日間でした。

今回は、4大学交流の一環としてのご厚意に甘えさせて頂き、実り多き成果を持ち帰ることができました。これを本学で有効に活用させていただき、本学の教育の向上に反映させ、目に見える形で示すことこそが一番の恩返しであると思い、これからも歯学教育に尽力することを宣言することで、お礼の言葉にさせていただきます。大変お世話になりました。ありがとうございます。

4学部合同オープンキャンパス

入試常任委員 山田 庄司

4学部合同進学説明会が旗の台キャンパスで7月26日(土)に行われました。30度を超える暑さにもかかわらず、全体で237組(歯学部27組)の受験希望者とその父兄が大勢参加しました。保健医療学部の看護学科と理学療法学科が昨年度を上回る参加者を集めました。他の学部の参加者は平均2割程度減少しました。

進学説明会は4号館の2階から6階の講義室、5号館2階と5階の実習室および12号館にある医学部のスキルスラボを使って9:00から13:00まで各学部の説明と個別相談や催しが同時進行の形で行われました。昭和大学全体の説明として「昭和大学の特長・チーム医療について」を4号館6階講堂で、医学

部の説明は5階講堂、薬学部の説明は4階講堂、歯学部と保健医療学部の説明は3階講堂、教育部の説明は2階講堂で、参加者が各学部の説明を聞けるように、それぞれ時間をずらして2回ずつ行われました。また各学部の個別相談や各種の催しは参加者が空いた時間にいつでも訪問できるように進学説明会の開始から終了まで、それぞれの説明会場前のホール(医学部だけは5号館5階実習室)で開かれて、参加者はパンフレットを見ながら真剣なまなざしで各ブースを回っていました。



学部連携病棟実習(1期)にファシリテータとして参加しました

高齢者歯科学教室 桑澤 実希

去年のトライアルに引き続き、今年は必修された4学部合同の学部連携病棟実習に指導員(ファシリテータ)として参加してきました。歯学部以外の学生は既に病棟で臨床実習を行っていますが、歯学部を含めた「チーム医療」を実体験するのは初めてとなります。

本来は歯科医師として伝えたいことが多数ありましたが、今回は指導の役割なので、我慢をして学生主導の実習を見守り、必要最小限の知識提供を行いました。実習中に歯学部生が担当患者の口腔を診察し、アセスメントシートを作成するのですが、他学部生は歯科領域ならではの視点に大変興味を持ったようでした。そして口腔ケアの実施計画書について意見を交換し、「虫歯の治療」だけではない歯科の役割を共有していました。さらに、歯学部生も薬学部生から口腔に関係する薬態の知識や、看護学部生から長期的な医療のゴールに関する知識を得ることにより、講義で学んだ内容をこの実習を通して身近に感じることができ、新しい視点を得ることができたと話していました。

実習開始前は、他職種を理解してこそ「チーム医療」が成立するので、この点を意識して取り組んでほしいと願っていましたが、学生同士が自然に意見を交換する姿勢に深い感銘を受けました。彼らが社会人になる頃には、「チーム医療」が必然となっていると思います。その一員として立派に活動できるよう、この実習体験が役立つことを願っています。

第8回国際神経科学学会で発表しました

大学院歯学研究科4年
(口腔リハビリテーション医学専攻) 伊原 良明

7月13日-20日にかけてイタリアのフィレンツェで行われた第8回 IBRO World Congress of Neuroscienceに参加してまいりました。ヨーロッパで行われる神経科学の学会としては最大規模のもので、4年に一度開催されています。口腔生理学の井上富雄先生、中山希世美先生、歯科麻酔学の野中睦美先生の4名が参加して参りました。学会会場は閑静な場所で建物は学会会場とは思えないほど素晴らしいところでした。今回の学会では歯科の先生ばかりでなく、医科の先生方やその他の研究者の先生方も発表されていて、普段あまり目にする事のない脳、神経活動に対する研究手法や分析方法などの発表があり大変勉強になりました。また、初めての国際学会ということもあり元々つたない英語だけでなく身振り手振りも交えての発表で英語をきちんと学ぶ必要性も痛感いたしました。今回の発表では他の国の大学院生の先生方のお話も聞くことができ非常に良い刺激をいただき、今後の臨床や研究に対する励みになりました。このような機会を頂いた教授並びに先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。



行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 9月10日(土) : 研修医採用試験
- 9月11日(日) : 歯学部オープンキャンパス
- 10月1日(土) : 大学院秋季入学式・富士吉田父兄会
- 10月7日(金)-9日(日) : 旗が岡祭・いぶき祭
- 10月9日(日) : 第4回ホームカミングデー
- 10月18日(火) : 歯科医師臨床研修マッチング発表
- 10月18日(火) : 解剖慰霊祭
- 10月22日(日) : 父兄会秋季部会

歯学部オープンキャンパス

入試常任委員 山本 松男

8月6日(土)の午後、歯科病院において平成23年度第1回目オープンキャンパスが開催されました。ここ数年歯学部人気の低迷がつづいておりましたが、幸い本学歯学部は今春までの入試において多くの志願者から選抜された優秀な新入学生を迎えています。会場は歯科病院6階第2講堂で、高校2年生と3年生を中心に、61組94人の参加をいただきました。

宮崎歯学部長の挨拶に続き、4学部連携チーム医療を主にした歯学部教育の特色、富士吉田キャンパスでの生活、入試に関する説明が行われました。その後、本学卒業生(5回生千木良尚志先生)からの宮城県における高齢者医療でのご活躍と歯学部志望者に対する激励の講演をいただき、参加者だけではなく教職員一同「元気」をもらいました。インプラントの最新医療、地域連携歯科の活動、小児歯科治療の様子等の説明に加えて、学生教育に活用されているヒューマノイドロボット(歯科矯正学榎教授が開発された「昭和花子2」デモンストレーション)やバーチャルペーシェント(歯科補綴学馬場教授が開発された南カリフォルニア大学と共同開発の最新教育システム)の紹介も行いましたが、志望する生徒だけではなく父兄の方々も大変強い関心を持っているようでした。

本学部では、我が国の20年後の状況を見越し、チーム医療で実力を発揮できるように学部連携型カリキュラム編成や実習の充実化を進めています。卒業時に何ができるのか(コンピテンシー)を明確にして、社会の要請に応えられる歯科医師の教育を行っているということも説明しました。これらの本学部の取り組みについて、受験を考える生徒だけでなく、ご参加いただきました父兄の方々にも、しっかりとお伝えできたものと思います。



診療統計(平成23年7月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,663	746.5	719.5	723.1
入院患者	538	17.4	12.2	15.9

大学院留学生 Welcome Party が開催されました。 歯科放射線医学教室 岡野 友宏



昭和大学に留学してきた学生などを対象とした大学院留学生 Welcome Party が、平成23年7月22日(金)、大学病院中央棟7階職員食堂で開催されました。外国人研修生7名(うち3名が歯学部)、留学生(医学部1名、薬学部4名)とその指導教員が出席しました。本来ならばもっと早く行うべきでしたが、震災や原発事故の関係で来日が遅れたため、この時期になりました。偶然にも、いま薬学部の交換留学生7名(米国5名、タイ2名)が滞っていましたので、彼らも参加しました。本間国際交流センターの挨拶、山元薬学部長の乾杯ではじまり、全員が自己紹介して、和気藹々とした雰囲気で大いに盛り上がりました。最後は岡野歯科病院長の3本締めで終わりました。

後列右から、Enkhzaya Gurundivaa さん(モンゴル健康科学大学、歯周病学)、山田教授(歯科薬理学)、Vajendra Joshi さん(インド・Navodaya Dental College and Hospital、歯科放射線医学)。前列右から天野准教授(歯科薬理学)、Zahirul Haque Bhuyan さん(バンラデシュ・サマジビティンク Dental College)、岡野教授(歯科放射線医学)。他の4名の方はインドネシアからの留学生(薬学部)と中国からの留学生(医学部)です。

受賞

広報委員長 井上 富雄

口腔生化学教室の大学院4年、宮本阿礼さんが第29回日本骨代謝学会にて高得点演題賞を受賞しました。受賞演題名は「二本鎖 RNA アナログはインターフェロン β /STAT1 経路を介して破骨細胞分化を抑制し骨粗鬆症モデル動物の骨量を増加させる」。



昭和大学教育者のためのワークショップに参加しました

地域連携歯科学講座 丸岡 靖史

私は7月29日から31日までの3日間、葉山のIPC生産性国際交流センターで昭和大学教育者のためのワークショップに参加しました。3日間とも梅雨に逆戻りしたかのような曇りや雨のあいにくの天気でしたが、非常に有意義なワークショップでした。

受講者は34名(医12名、歯7名、薬2名、保健医療4名、教育部3名、看専1名)でした。30日からは医・歯学部アドバンスも同施設内で行われました。

1日目は自己紹介後、AからEの5グループに分かれて①医学教育・学内の問題点(KJ法)、②カリキュラム・目標設定に関してグループ討論・発表、コミュニケーションゲームに続いて理事長、学長を交えての懇親会、2日目は③方略、④評価、に関してグループ討論・発表後に、医・歯学部アドバンスを交えて総勢100数十名での懇親会で大変盛り上がりました。3日目は①への対応および抵抗への克服に関してグループ討論・発表、医学部アドバンスとの討論後終了となりました。



今回のワークショップでは医系総合大学として、昭和大学がこんなにも教育・教育者育成に熱心に取り組んでいることがよく理解できました。ぜひ今後の学生・研修医の教育に十分に生かしたいと思います。

編集後記

歯科放射線医学教室 松田 幸子

歯学部便り8月号をお届けします。毎回のことですが、お忙しい中、時間を割いて執筆していただいた先生、教務の方々には本当に感謝しております。夏といえばワークショップ、今年も多くのワークショップが開催されました。今回はこれらの企画・運営のために先生方や教務の方を含む多くのサポーターの方々の存在を知ることができました。参加された先生方が頭に汗をかきながら、学生さんたちにどのように学んでもらおうかと試行錯誤しておられる姿が浮かび上がってきます。震災以降、突然何が起ころうともおかしくないことを誰もが経験済みだと思いますが、ここで学ぶ学生さんたちが、人を思いやる心と医療人としてどんな状況にでも対応できる知識や経験をより多く備えた人に成長していくことを祈ってやみません。